

報道関係各位		発信年月日	令和8年8月28日	送付枚数 (本紙含む)	3枚
担当部課名		担当課長名	担当者職氏名	連絡先電話番号	
協創部 文化スポーツ推進課		村田 浩	文化振興係 堀田 祐菜	(0836) 82-1115	
件名	若手作家の登竜門『現代ガラス展』が節目の10回目 「第10回現代ガラス展 in 山陽小野田」萩展を開催します！				
内 容					
山陽小野田市では、若手ガラス作家の育成と現代ガラス芸術の振興を目的として、日本二大ガラス展のひとつと称される「現代ガラス展 in 山陽小野田」を開催しています。 本年は節目となる第10回展を迎え、おのだサンパークで開催した本展は、多くの皆様にご来場いただき、盛会のうちに終了しました。引き続き、下記のとおり萩展を開催します。会期中には、きららガラス未来館によるワークショップも実施し、ガラス芸術の魅力をより深く感じていただける機会となります。 記 1 展覧会概要 ・ 会 期：令和8年9月1日（火）～10月12日（祝） 9：00～17：00（入場は16：30まで） ・ 会 場：山口県立萩美術館・浦上記念館 陶芸館2階 ・ 入場料：コレクション展観覧料（一般400円 他） 2 本展の特徴 ・ 若手作家の登竜門として高い評価を受け、過去受賞者の多くが国内外で活躍 ・ 山陽小野田市内にとどまらず、山口県立萩美術館・浦上記念館や東京の上野の森美術館といった、著名な美術館での展示を行う。 3 問い合わせ先 現代ガラス展実行委員会事務局（文化スポーツ推進課内） TEL：0836-82-1115 FAX：0836-83-2604 MAIL：glass-art@city.sanyo-onoda.lg.jp					



The 10th Beginning

SANYOONODA
CONTEMPORARY
GLASS ART EXHIBITION

特別作品展「菰展」

光の潮流、熱の記憶。

The 10th
Beginning
SANYOONODA
CONTEMPORARY
GLASS ART EXHIBITION



第10回 現代ガラス展 in 山陽小野田

特別作品展「菰展」

第10回 現代ガラス展 in 山陽小野田

特別作品展「菰展」 | 山口県立萩美術館・浦上記念館 陶芸館2階

2026
9.1 — 10.12 MON
TUE

9:00-17:00 (入場は16:30まで)

入場にはコレクシヨン展覧資料(一般400円 他)が必要です

主催：現代ガラス展実行委員会・山陽小野田市
現代ガラス展実行委員会事務局
山口県山陽小野田市の出一丁目1番1号
文化スポーツ推進課内 TEL 0836-82-1115



SANYOONODA GLASS ART



2026
SANYOONODA
CONTEMPORARY
GLASS ART
EXHIBITION

大賞

痕跡Ⅶ

本作は、植物の断片や生物の抜け殻、細胞と
いった「痕」をモチーフとして制作しています。
それらは、成長・腐朽・再生といった生命の
循環を助かに内包し、その痕跡として存在して
います。制作にはモデリング・ハードドグウェア
という技法を用いています。この技法では、
ガラス粉末と糊を混合した素材を使用し、
粘土のように手作業で成形を行います。

2010 - 2014 近畿大学 文芸学部 芸術学科 学生
2014 - 2016 東京藝術大学 大学院美術研究科 修士課程
2021 - 2025 近畿大学 文芸学部 芸術学科 非常勤講師
2025 - 現在 近畿大学芸術系 助教

勝川夏樹

Natsuki Katsukawa



優秀賞

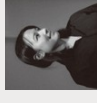
transmute

海や川、波、風など「自然の流れ」に深く魅了
されてきた。現在は、ガラスに直接触れて
制作したいという強い思いから、クーレン(直径
2~5cm程)のガラス棒を並べて加熱し、
温度が770度を超える瞬間に耐火皿と耐火
手袋を身に付けている。ガラスを動かすこと
ができた約2分間という短い制作時間に自分の
感じた「自然の流れ」を形作っている。

2025 多摩美術大学 工芸学科 卒業
2025 HOGUE上野プロダクト/ROUGH ARTIST
2025 山口県立山陽小野田市立工芸美術館 工芸学科ガラスプログラム
2025 多摩美術大学 工芸学科 工芸学科ガラスプログラム
修士前期課程 入学
2025 リベンスキープアワード2025 ファイナリスト(チェコ)
2025 新竹市金波湖 ガラス芸術・デザイン応用制作
コンペティション ガラス素材部門 第2位 (台湾)

レイモンド愛華

Aika Raymond



市長賞

関／Becoming

器という内部空間を、物質が形を得るための場として用いた。
融点の異なる原料の反応を想定して条件を設計しても、焼成
中に生じる差異は埋めきれない。殻を解体し、内部で生まれた
部分のみを取り出すことで、素材の変化を固定し記録する。そ
の過程に立ち会うことは、素材やプロセスの強さと自己とが、同
じ重さをもって現れる場を見つけることにもつながっている。

2013 金沢市立金沢美術工芸大学 工芸材料陶磁コース 卒業
2015 多分町陶磁器研究所 研究員 終了
2015 - 2021 株式会社 弥生堂 工芸製作所 勤務
2021 - 2026 金沢市立山陽小野田市立工芸美術館 勤務

板屋成美

Narumi Itaya



GLASS & SANYOONODA

山陽小野田市とガラス

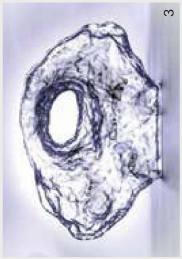
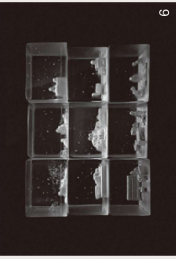
窯業の歴史

山陽小野田市は、昔から窯業のまちとして発展してきました。6世紀後半には「須恵器」の生産地として賑わい、明治22(1889)年に磁器会社設立されると、化学製品の容器として「磁器瓶」など製陶業が盛んになりました。

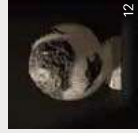
明治14(1881)年には国内初の民間セメント会社が設立され、「徳利窯」の通称で親しまれている「旧小野田セメント製造株式会社堅窯」は国の重要文化財に指定されています。

このように山陽小野田市は、古くから窯業と深い関わりがあり、窯業を伝承しつつ新しい市の文化を創造し、発信するために、公設ガラス工房を設立するなどガラスをコンセプトにしたまちづくりに取り組んでいます。

審査員賞 5 名 — モーントンベイ市長賞 1 名

					
審査員賞 1	三輪審査員賞 icy flow 加藤千佳 Chika Kato	審査員賞 3	長谷川審査員賞 残浪の終点 堀田裕未 Yumi Shioda	審査員賞 5	外館審査員賞 壊 無倉 愛 Ai Kumakura
審査員賞 2	ホンムラ審査員賞 Vestige 藤掛幸智 Sachi Fujikake	審査員賞 4	渡谷審査員賞 途 #VIII 遠藤由季子 Yukiko Endo	審査員賞 6	モーントンベイ市長賞 透ける視界、不完全な想像 津倉知里 Chieri Tsukura

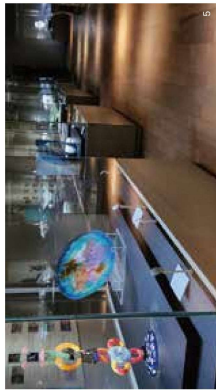
冠スポンサー賞 11 名

					
冠スポンサー賞 1	冠スポンサー賞 2	冠スポンサー賞 3	冠スポンサー賞 4	冠スポンサー賞 5	冠スポンサー賞 6
冠スポンサー賞 7	冠スポンサー賞 8	冠スポンサー賞 9	冠スポンサー賞 10	冠スポンサー賞 11	冠スポンサー賞 12
冠スポンサー賞 13	冠スポンサー賞 14	冠スポンサー賞 15	冠スポンサー賞 16	冠スポンサー賞 17	冠スポンサー賞 18

現代ガラス展の歩み

本市出身のガラス造形作家
故竹内傳治の遺志を継ぐ
若手ガラス作家の
登竜門的コンベンション。

本市出身のガラス造形作家である故竹内傳治の遺志を受け、平成12年に「日本の現代ガラス展」を開催、翌年から「現代ガラス展」を3年に1度開催しています。特に、出品者に45歳以下という年齢制限を設け、現在は若手ガラス作家の登竜門的コンベンションとして、確固たる地位を築いています。展示についても市内にとどまらず、近年では山口県立美術館・浦上記念館や上野の森美術館(東京都)に会場を拡充しています。



1 松山露蔭から出た須恵器 2 旧小野田セメント製造株式会社堅窯(徳利窯) 3 公設ガラス工房 きららガラス未来館 4 日本の現代ガラス展(2000年) 5 第9回 現代ガラス展 特別作品展 萩展(2023年)

友好都市モーントンベイ市との歴史

1992年、モーントンベイ市と山陽小野田市が姉妹都市として提携を開始してから、私たちの関係は年々深まり、多くの若者たちが互いの文化を理解し、国際的な視野を広げる機会を得ました。また、芸術やスポーツの交流イベントにより、市民同士の絆が深まり、特に、文化の面においては、2025年、レッドクリフ・アート・ギャラリーで、山陽小野田市のガラス文化の歴史とガラスプラザ「CLASS GLASS」の紹介をしていただきました。藤田市長がモーントンベイ市を訪れた際には、展示会の開幕式に立ち会いました。

こうした友好の歩みを背景に、第10回現代ガラス展では、新たに「モーントンベイ市長賞」を設けました。本賞の創設は、両市の結びつきを象徴するものであり、本展に新たな広がりや国際性をもたらすものです。

